

大川小遺族映画に思い

高崎電気館来月2、3日



「春をかさねて」©SSO
nomi Sato

妹犠牲の映像作家制作

東日本大震災の津波で、宮城県石巻市の大川小に通っていた妹(当時12歳)を亡くした映像作家・佐藤そのみさん(27)の映画が9月2、3日、高崎市の高崎電気館で上映される。校舎があった大川地区で撮影し、「故郷」と「災害」をテーマにした2本立てで、群馬県内では初の上映となる。

2011年3月に起きた震災の津波で、大川小では佐藤さんの妹・みずほさんを含む児童・教職員計84人が犠牲になった。佐藤さんはその後、東京の日大芸術学部映画学科に進学した。

上映されるのは、佐藤さんが同大に在学中の19年、故郷で撮影した劇映画「春をかさねて」(45分)とドキュメンタリー「あなたの瞳に話せた

ら」(29分)。

「春をかさねて」は、この津波を題材としたフィクションで、震災でそれぞれ妹を亡くした幼なじみの2人の女子中学生を描いている。1人はマスクミを通じて経験を発信する一方、もう1人はボランティアの大学生に恋心を抱く。すれ違いながらも歩み寄っていく姿を描いた。

「あなたの瞳に話せたら」は、大川小で家族や仲間を失った同地区の人々たちにカメラを向け、震災後に何を感じ、どのように生きてきたかを伝えていく。

上映は両日とも午後2時〜同3時15分で、上映後には佐藤さんが作品などについて語る催しも行われる。入場料1000円(全席自由)。予約者・前売りチケット購入者優先。問い合わせは、上映会の実行委員会の鈴木宏輝代表(090・4386・8961)。